

科目名	基礎看護方法Ⅳ (診療援助技術) Fundamental Nursing IV		担当教員 (研究室番号)	菅原 啓太 (208) 灘波 浩子 (204) 川島 珠実 (202) 鈴木 聡美 (103) 岡根 利津 (208)		教員への連絡方法 (メールアドレス)	菅原: keita.sugawara@mcn.ac.jp 灘波: hiroko.namba@mcn.ac.jp 川島: tamami.kawashima@mcn.ac.jp 鈴木: satomi.suzuki@mcn.ac.jp 岡根: ritsu.okane@mcn.ac.jp					
履修年次	2年次 前期	科目区分	専門科目・実践基盤看護学		選択区分	必修	単位数 (時間)	2 (60)	授業形態	演習	科目等履修生	否
科目目的	診療や検査・治療を受ける対象者に対する看護援助について、科学的根拠に基づき安全・安楽・正確に実施する技術を、主体的な学習により修得する。											
ディプロマポリシー (DP)	主要なDP	H 人々の健康に関する課題の解決に向けて、安心・安全・安楽・自立を基本とした看護を実践する技能を身につけている。(技能・表現)										
	関連するDP	E 看護専門職者としての役割を認識し、看護の実践に活用するための専門的知識を身につけている。(知識・理解) I 自己の課題に対して研鑽する態度を身につけている。(姿勢・態度)										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診療過程における看護者の役割について説明できる。 2. 対象者に合わせた援助方法を選択するために必要なアセスメントの視点が説明できる。 3. 診療過程における看護援助を、安全・安楽・正確に実施するために必要な知識と技術を習得できる。 4. 科学的根拠に基づいて看護を実践することの必要性が説明できる。 5. 自ら学習課題を見出し、演習や自己練習に取り組むことができる。 											
成績評価方法 (基準)	筆記試験 (60点)、課題レポート (40点) による総合評価を行う。なお、筆記試験・課題レポートはそれぞれ60%以上の評価であることを単位認定の条件とする。 遅刻・早退は3回で欠席1回とみなし、30分以上の遅刻・早退は欠席として扱う。											
再試験の有無と基準等	筆記試験で不合格となった場合、本人からの申請により、再試験を受けることができる。 課題レポートで不合格となった場合、本人からの申請により、再試験を受けることができる。											
教科書	系統別看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ, 第17版, 医学書院. 系統別看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ, 第17版, 医学書院.											
参考書等	ガーゼニア・ハンダーソンの著, 湯植ますほか訳: 看護の基本となるもの (再新装版), 日本看護協会出版会. アレン・ナティンゲル著, 小玉香津子・尾田葉子訳: 看護覚え書き 本当の看護とそうでない看護, 日本看護協会出版会. その他、授業の中で適宜紹介する。											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	診療過程における看護援助は、対象者へ安全・安楽・正確に実施する必要があり、技術の根拠を理解することが重要となります。そのため、人体の構造や仕組みを理解したうえで「なぜそうするのか」「これが最良の方法か」を追求してもらいたいと考えています。 講義・演習では、グループで検討することを重視します。さらに演習では、学生間で患者役・看護者役を交代しながら学習し、「あとは自己学習(練習)すれば技術習得できる」ことを目指し、自己学習(練習)のポイントをつかみましょう。特に注射針を取り扱う看護技術は、演習の時間内でしか体験できないことから、演習用紙やチェックリストで自己の技術を評価しつつ、自己の技術の完成度を高められるよう計画的に学習に取り組んでください。											
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の一週間前までに「資料レポート管理システム」に授業概要や事前課題(レポート・映像教材視聴含む)や演習用紙(演習ノート)等を提示する。それを授業までに各自でダウンロードし、事前準備・予習を行う。 ・演習前には、個人や演習グループで自分たちが演習で用いる物品を準備する。他に当番制の演習準備と演習後片付けを担当するため、自己の役割を判断し、主体的に取り組む(詳細はオリエンテーションで示す)。 											
回	学習項目	学習内容							主担当教員	授業方法		
1回	オリエンテーション 感染防止の技術① (医療感染予防策)	診療過程における看護援助を安全・安楽・正確に実施することの重要性を理解し、本科目の考え方・学習の仕方について学ぶ。 感染の要因を理解し、感染症を予防するための方法を学ぶ。							菅原 /川島	講義		
2回	感染防止の技術② (滅菌物の取り扱い)	安全に滅菌物を扱うための技術を学ぶ。							川島	講義		
3回	感染防止の技術③ (滅菌手袋の着脱)	滅菌手袋の着脱を安全に実施する技術を学ぶ。							川島、他	演習		
4回	検査・処置の介助技術①	検査における看護の役割、看護における検査の意義、検査を安全・安楽・正確に実施する方法を学ぶ。							菅原	講義		
5回	検査・処置の介助技術② (採血器具の構造・取り扱い、準備)	採血法で使用する物品(滅菌物)を安全に扱うための技術を学ぶ。							菅原	講義		
6回	検査・処置の介助技術③ (採血法)	静脈採血における看護師の法的責任と看護の役割、安全・安楽・正確な実施方法(真空採血管を用いた静脈採血)およびその根拠、副作用の観察の重要性について学ぶ。							菅原	講義		
7回	感染防止の技術④ (滅菌手袋の着脱チェック)	滅菌手袋の着脱を安全に実施する技術を確認する。							川島、他	演習		
8回	検査・処置の介助技術④ (真空採血管を用いた採血技術)	採血する部位を適切に選定し、効果的で安全に駆血帯を巻き、確実にアームダウンを行うための技術を学ぶ。							菅原、他	演習		
9回	検査・処置の介助技術⑤ (真空採血管を用いた採血技術)	真空採血管を用いた静脈採血を安全かつ正確に実施するための技術を学ぶ。							菅原、他	演習		
10回	検査・処置の介助技術⑥ (採血法)	対象者の状態に合わせた用具を用い、静脈採血を安全かつ正確に実施するための技術を学ぶ。							菅原、他	演習		
11回	苦痛の緩和・安楽の確保技術① 呼吸・循環を整える技術①	罨法の種類と罨法が身体に及ぼす影響、および苦痛の緩和や精神的安寧を目的とする看護援助について学ぶ。 呼吸および循環を整えるための技術を学ぶ。							岡根	講義		
12回	呼吸・循環を整える技術② (吸引・酸素吸入)	吸引・酸素吸入を安全・安楽に実施する技術を学ぶ。							岡根、他	演習		
13回	感染防止の技術⑤、創傷管理技術①② (無菌操作、包帯法)	創傷治癒を促進するための管理方法を学ぶ。							鈴木、他	講義 演習		

回	学習項目	学習内容	主担当 教員	授業 方法
14回	感染防止の技術⑥ (個人防護具の着脱)	個人防護具の着脱を安全に実施する技術を学ぶ。	鈴木、他	演習
15回	排泄援助技術Ⅱ①	排便障害及び排尿障害のある対象者のアセスメントおよび排便・排尿の状態を整える方法とその根拠を学ぶ。	鈴木	講義
16回	排泄援助技術Ⅱ② (洗腸)	グリセリン浣腸を安全に実施し排便を促す技術を学ぶ。	鈴木、他	演習
17回	総合演習①	紙上事例に対して、これまで学んだ看護技術を安全・安楽に留意しながら自立に向けて援助する方法を検討する。	灘波、他	演習
18回	総合演習②	紙上事例に対して考えた看護援助の妥当性や効果について、検討する。	灘波、他	演習
19回	排泄援助技術Ⅱ③	膀胱留置カテーテルを安全に扱うための基本的技術を確認する。	鈴木	講義
20回	排泄援助技術Ⅱ④ (尿道留置カテーテル)	膀胱留置カテーテルを安全に留置し、排尿を継続させる技術を学ぶ。	鈴木、他	演習
21回	排泄援助技術Ⅱ⑤ (尿道留置カテーテル)	膀胱留置カテーテルを、感染予防に留意しながら管理する技術を学ぶ。	鈴木、他	演習
22回	与薬の技術①	与薬における看護師の法的責任と看護の役割、安全な薬物の管理方法、薬物の形状や作用の特徴による効果的な適用方法、与薬による効果や副反応の観察の重要性について学ぶ。	川島	講義
23回	与薬の技術②	安全かつ正確に注射薬を準備する方法とその根拠を学ぶ。	川島	講義
24回	与薬の技術③	皮下注射・筋肉内注射を安全かつ正確に実施する方法とその根拠を学ぶ。	川島	講義
25回	与薬の技術④ (皮下注射)	皮下注射を安全かつ正確に実施する技術を学ぶ。	川島、他	演習
26回	与薬の技術⑤ (筋肉内注射)	筋肉内注射を安全かつ正確に実施する技術を学ぶ。	川島、他	演習
27回	与薬の技術⑥ 点滴・輸液	点滴静脈内注射を安全・安楽・正確に実施する方法とその根拠を学ぶ。	川島	講義
28回	与薬の技術⑦ (点滴静脈内注射)	点滴静脈内注射を安全・安楽・正確に実施する技術を学ぶ。	川島、他	演習
29回	与薬の技術⑧ (点滴静脈内注射)	点滴静脈内注射を管理する技術を学ぶ。	川島、他	演習
30回	総合演習③	点滴静脈内注射および尿道留置カテーテル留置中の患者の生活援助について検討する。	川島、他	演習

学 習 課 題

※レポート課題の提出や配点は、別途知らせる

- 第1・2・3回課題(事前)：感染予防の意義と基礎知識について、教科書や資料を元に調べておく。
(事後)：感染予防に関する文献を読んで、学んだことおよび自分の考えを記述する。
- 第4回課題(事前)：主な検査の実施方法と基準値について復習しておく。
(事後)：看護における検査の意義について、指定された資料を元に整理する。
- 第5・6・8・9・10回課題(事前)：採血可能な静脈の部位と解剖学的特徴を確認しておく。
(事後)：真空採血管を用いた静脈採血のチェックリストにより、自己の技術を評価し提出する。
- 第7回課題(事前)：滅菌手袋の扱い方について、教科書や資料を元に調べておく。
(事後)：滅菌手袋の装着のチェックリストにより、自己の技術を評価し提出する。
臨床実習における感染予防について、文献を根拠に自己の考えをレポートにまとめ提出する。
- 第11・12回課題(事前)：正常なバイタルサイン値とバイタルサインに影響を及ぼす要因について復習しておく。
(事後)：呼吸に異常のある患者の看護について、レポートにまとめ提出する。
- 第13回課題(事前)：創傷治癒を促進する管理方法について、教科書や資料をもとに調べておく。
(事後)：創傷処置を促進する技術に関するチェックリストにより、自己の技術を評価し提出する。
- 第14回課題(事前)：個人防護具を着用する目的について、教科書や資料を元に調べておく。
(事後)：個人防護具の着脱に関するチェックリストにより、自己の技術を評価し提出する。
- 第15・16回課題(事前)：排泄援助技術を復習し、排便・排尿障害について教科書や資料を元に調べておく。
(事後)：洗腸のチェックリストにより、自己の技術を評価し提出する。
- 第17・18回(事前)：事例に行う援助方法を判断するためのアセスメントを行い、レポートに整理する。
(事後)：事例に行う援助計画を完成させ、提出する。
- 第19・20・21回課題(事前)：滅菌物の扱い方について、教科書や資料を元に復習しておく。
(事後)：尿道留置カテーテルの留置方法および管理方法のチェックリストにより、自己の技術を評価し提出する。
- 第22回課題(事前)：薬物療法の基礎知識を復習しておく。
(事後)：与薬を受ける患者のアセスメント項目を整理する。
- 第23・24・25・26回課題(事前)：皮下・筋肉内注射の部位と実施方法を確認しておく。
(事後)：皮下注射・筋肉内注射のチェックリストを用いて、技術の留意点および根拠を整理し、提出する。
- 第27・28・29回課題(事前)：点滴静脈内注射の部位と実施方法を確認しておく。
(事後)：文献を読んで、薬物療法における看護師の役割について、自分の考えをレポートに整理する。

回	学習項目	学習内容	主担当 教員	授業 方法
第30回	課題	(事前) : 点滴静脈内注射および尿道留置カテーテルの管理方法について整理しておく。 (事後) : 事例に必要な看護について、レポートにまとめ、提出する。		

実務経験を活かした教育の取組

・担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。